

■長期目標

環境やコミュニティ・人々を傷つける鉱物採掘をストップさせ、エシカルな資源利用が行われる社会を目指します。

■2014年度の活動

目標1－企業の金属採掘時の社会・環境配慮へのより根本的な取組みを促す

金属を使用する製品製造に関わる企業における、調達を通じた採掘時の社会・環境配慮への取組みの調査および意見交換を実施し、より根本的な取組みを促します。

結果－達成度 90%

・2014年10月17日にエシカルケータイキャンペーン実行委員会として「エシカルな鉱物・金属調達に関する公開質問状2014」を発送し、送付した97社のうち34社から回答を得ました。また、回答企業のうち7社に訪問および会合をもち、意見交換を実施しました。また、3月に実施したイベントでは、株式会社ニコン、パナソニック株式会社よりご登壇を頂きました。

目標2－エシカルケータイキャンペーンを推進、採掘問題の認知を広める

エシカルケータイキャンペーンの実行委員会メンバーとしてエシカルケータイキャンペーンを推進し、採掘の問題の認知を広めます。

結果－達成度 90%

・2014年度は15回の実行委員会会合を行い、主な運営を担いました。また、賛同団体にナマケモノ倶楽部・アジア太平洋資料センター(PARC)(5月)、ビジネス・人権資料センター(7月)が加わり、それぞれの活動分野に関して連携してイベント・発信(ウェブサイト、メールマガジン、facebook等)を行いました。また、エシカルケータイキャンペーンのfacebookページも開設し、発信チャンネルを増やしました。



上:NGO(エシカルケータイキャンペーン実行委員会)と企業との対話の機会は年に数回設けています。

エシカルな鉱物・金属調達に関する公開質問状 2014 及び回答表

質問 0. 鉱物・金属に関するサプライチェーン上で貴社がどの部分にあたるかお答えください。(複数選可)

A. 鉱山採掘
 B. 精錬
 C. 一次加工 (合金等)
 D. 二次加工 (部品等)
 E. 最終製品製造
 F. 商社・卸売
 G. 最終製品販売
 H. その他 ()

質問 1. 環境・社会問題に配慮した鉱物・金属調達を行うための方針や基準について伺います。
 質問 1-1. 環境・社会問題に配慮した鉱物・金属調達を行うための方針を策定していますか。また、策定していない場合、今後策定する予定はありますか。

A. 鉱物・金属の調達方針を策定している
 (名称・公開場所:) 例: ①E、②E、③E、④E、⑤E、⑥E、⑦E、⑧E、⑨E、⑩E、⑪E、⑫E、⑬E、⑭E、⑮E、⑯E、⑰E、⑱E、⑲E、⑳E、㉑E、㉒E、㉓E、㉔E、㉕E、㉖E、㉗E、㉘E、㉙E、㉚E、㉛E、㉜E、㉝E、㉞E、㉟E、㊱E、㊲E、㊳E、㊴E、㊵E、㊶E、㊷E、㊸E、㊹E、㊺E、㊻E、㊼E、㊽E、㊾E、㊿E
 B. 鉱物・金属に特化した調達方針がないが、全般の調達方針でカバーしている
 (名称・公開場所:) 例: ①E、②E、③E、④E、⑤E、⑥E、⑦E、⑧E、⑨E、⑩E、⑪E、⑫E、⑬E、⑭E、⑮E、⑯E、⑰E、⑱E、⑲E、⑳E、㉑E、㉒E、㉓E、㉔E、㉕E、㉖E、㉗E、㉘E、㉙E、㉚E、㉛E、㉜E、㉝E、㉞E、㉟E、㊱E、㊲E、㊳E、㊴E、㊵E、㊶E、㊷E、㊸E、㊹E、㊺E、㊻E、㊼E、㊽E、㊾E、㊿E
 C. 現在は全般の調達方針のみだが、鉱物・金属調達に特化した方針の策定を検討している。
 (策定予定時期: 年 月 日)
 D. 鉱物・金属の調達方針を策定していない。
 (その理由:)

質問 1-2. 質問 1-1 で A~C とお答えの方には伺います。策定もしくは検討されている方針についてお答えください。

鉱物・金属の調達方針において、どのような環境・社会問題への配慮を定めていますか (複数回答可)	具体的に定めている鉱物・金属、内容があればお答えください	鉱物・金属	具体的内容
A <input type="checkbox"/> 工場や事業・大気汚染を引き起こしていないか			
B <input type="checkbox"/> 野生生物や生物多様性への影響を及ぼしていないか			
C <input type="checkbox"/> 先住民、居住者の生活や土地・文化を侵害していないか			
D <input type="checkbox"/> 児童労働や、未成年労働での労働を行っているか			

1



左：公開アンケートは公式 Web サイトで内容を掲載しています。
 右：アンケートの回答やドッド・フランク法の動向を踏まえセミナーを開催。

■年間活動実績

- 5 月 ナマケモノ倶楽部が実施するエクアドルの鉱山開発候補地に向けたアクションに協力
- 6 月 PARC 等と共催で公開勉強会「日本の希少資源調達とアジア」私たちのケータイがマレーシアで放射能汚染を引き起こす？－日本の資金で拡大するレアアース加工工場 を実施 (エシカルケータイキャンペーン実行委員会)
- 6 月 マレーシア・レアアース精錬事業における適切な環境社会配慮・住民協議を求める要請に呼びかけ団体として参加、9 月提出
- 10 月 エシカルな鉱物・金属調達に関する公開質問状 2014 を発送、11 月回答期限。(エシカルケータイキャンペーン実行委員会)
- 12 月 エシカル連続講座 vol. 1 「日本の『エシカル』、今どのあたり？」を開催
- 3 月 エシカル連続講座 vol. 2 「消費者としてのエシカル ～ラッシュジャパン、ピープル・ツリーの取組みとアクティブコンシューマリズムから考える～」を開催
- 3 月 エシカル連続講座 vol.3 「公開質問状結果から考えるエシカルな鉱物・金属調達～ドッド・フランク法 紛争鉱物対応を超えて～」を開催
- 3 月 港区立エコプラザセミナー 「エシカルメタルって何だろう？」に加治が登壇

エシカルケータイキャンペーンについて
 私たちが普段使っている携帯電話などの電子機器には、様々な金属が使われています。しかし、その金属の元となる鉱物を採掘する過程で、生物多様性の破壊、人権侵害などのさまざまな環境・社会問題が起きていることは、あまり知られていません。
 エシカルケータイキャンペーン実行委員会は、採掘問題の認知を広め、製品を通じて採掘問題を解決することを目指して、2010 年 7 月にエシカルケータイキャンペーンを開始しました。「エシカル」な金属調達をメーカーに求め、市民・団体の賛同を募っています。
 ぜひこのキャンペーンにご賛同ください。
 (Web サイト : <http://www.ethical-keitai.net/>)



■長期目標

化石燃料由来のエネルギー等の利用について改めて見直し、再生可能なエネルギーを誰でも選択し、利用できる持続可能な社会を目指します。そして、市民として、身近な市区町村単位での小規模な地域コミュニティの自治に関わるきっかけが見えやすい、参加型社会を創っていきます。

■2014年度の活動

目標1 ー地域でエネルギーの自給に取り組むワカモノを増やす

日本各地で生まれている地域分散型のエネルギー自給の取り組みについてワカモノに普及啓発を行い、地域でエネルギーの自給に取り組むワカモノを増やします。

結果ー達成度 40%

- ・内部勉強会や岡山県西粟倉村でのエネルギーの地域自給の取り組みについて学ぶ場を持ちました。参加者層は、これまで市民電力連絡会への参加やエネルギー関連のイベント等でつながってきた方、エネルギーに関心の高い方が中心に20名が集まりました。
- ・土と平和の祭典2014やエコプロダクツ2014に出展しました。市民電力連絡会の資料を参考にして東京の市民発電所マップの立体模型を作成し、来場者の方に市民発電所が東京にも多く生まれていることを可視化することによって、東京という地域でのエネルギー自給に取り組んでいる市民発電所についての紹介を行いました。メンバーにとっては初のブース出展の機会であり、伝えるということの難しさやエネルギーとまちづくりプロジェクトとしての活動及びコンテンツをつくっていくことの重要性をより実感する機会となりました。試行錯誤の1年だったので、より具体的な活動をつくっていくことが、2015年度の課題です。

目標2 ー首都圏における自然エネルギー普及について話し合う場の構築

首都圏において市民発電所の取り組みをしている団体とこれからの自然エネルギー普及について話し合う場をつくります。

結果ー達成度 20%

- ・首都圏において市民発電所に取り組んでいる団体と直接的に自然エネルギー普及について話し合う場をつくることは出来ませんでした。しかし、ASJとしてPower Shiftキャンペーンの賛同団体となったり、市民電力連絡会等のプロジェクトと共通のテーマで話し合う場に積極的にメンバーが参加したりしました。
- ・2015年3月には、2016年からの電力小売り自由化に向けて「エネルギー×金融」という視点から、本プロジェクト初の主催シンポジウムを実施。日本のエネルギー政策の現状を踏まえ、カナダ・オンタリオ州での電力自由化を巡る動向やドイツにおける市民の取り組み、市民ファンドや疑似私募債など、市民発電所の創設に重要な資金調達手段、日本の地域金融機関のエネルギー事業への取り組み、ドイツでのGLS銀行の紹介があり、今後日本においてどのような取り組みが出来るかという点について考える機会を持つことが出来ました。今回のシンポジウムは、今後の市民・地域共同発電所の実務を担う方、エネルギーに関心のある市民、研究者など25名が参加し、これまで接点のあまりなかった人たちをつなぎ、広い議論をしていくきっかけとして、意義のある場になりました。

目標3 地域・市民主導での自然エネルギー普及を促進

地域・市民主導での自然エネルギー普及を促進するために、地域の制度および政府の政策に働きかけます。

結果ー達成度 10%

・政策提言をする段階には至りませんでした。Power Shift キャンペーンの会議に参加することなどを通して日本のエネルギー問題を取り巻く状況、特に2016年の電力小売り自由化に向けて今どういった働きかけが必要とされているのか、今後の政策提言をしていく上で必要となる情報を得ることができました。



上：土と平和の祭典では居酒屋をモチーフに食・エネルギー・お金の選び方を紹介。

年間活動実績

- 6月 ワカモノ×ミライなエネルギーについて提言を創ろう(六ヶ所村ツアー報告会)を実施(未来生活 now プロジェクトと共催)
- 7月 「エネルギーについて学び、よりよいまちづくりを追い求める」内部勉強会
～地域でエネルギーをつくる社会の実現に向けて～
- 8月 エネルギー地域自給の話しよう！～井筒耕平さんを囲む会～を実施(アジア太平洋資料センター[PARC]と共催)
- 11月 「土と平和の祭典 2014」へ出展、ブース名「ー未来の生命につながる生活や生命を大切にする経済のしくみに変える居酒屋ー」(未来生活 now プロジェクトと合同出展)
- 12月 「エコプロダクツ 2014」ブース出展(エコ貯金・未来生活 now と合同)
- 3月 「再エネ×金融×電力自由化」シンポジウム 主催



右：3月のシンポジウムでは、再生可能エネルギー推進のための金融の仕組みを海外事例をまじえて検討。

上：3月のシンポジウムでは若い世代の専門家・参加者を中心におよびし、関係を築きました。

チームリーダー（浜田恒太郎）より一言――

A SEED JAPAN に出会ったのは、2009年8月の大学4年生の夏でした。それから7年目を迎え、昨年からは初となるチームリーダーをやっています。活動をつくることの難しさを感じつつも、少しずつ手応えを感じている自分もいます。

2015年度は、これまでの経験を活かしつつ、具体的な活動をつかっていけるそんな一年にしたいと思います。

どうぞよろしくお願ひします。



■長期目標

中央アフリカの紛争地域に暮らす人々が不条理に脅かされず、ゴリラとの共生を選べる社会を目指します。

■2014 年度の活動

目標 1 ー携帯電話が引き起こす問題についての情報拡散

携帯電話が引き起こす問題について知っている人を 500 人以上増やします。

結果 ー 達成度 30%

・今年度はイベント出展だけでなく、講演会も開催するなど市民啓発の活動を重視してきました。しかし参加してみての実測値として、イベントブースへの来場人数は約 150 人、イベント参加人数は約 50 人程度と推定しており、短期目標に据えた人数だけ認知を増やせたとは言えないため、この達成度にしております。

目標 2 ー紛争地域の現地で起きている問題とその根本原因を社会に発信

紛争地域の現地で起きている問題とその根本原因を明らかにし社会に発信します。

結果 ー 達成度 10%

・ケータイゴリラとしてアフリカで起きている問題の解決に貢献したいという思いから、改めてその根本原因を探ろうとしました。実際にアフリカのフリージャーナリストの天津司郎氏をお招きしての講演会を実施し、ジャーナリズムという視点からコンゴで起きている問題の根源を探りました。しかし、こうした根本原因を社会に発信するまでには至ることができませんでした。

目標 3 ー不要な携帯電話 1,500 台をリサイクル、リユース回収

年に数回のブース出展や法人回収を通じて、不要な携帯電話 1,500 台をリサイクル、リユース回収します。

結果 ー 達成度 60%

・2014 年度に回収できた台数は 955 台でした。目標とする台数には届きませんでした。法人回収で 53 台の携帯電話をリユースすることができました。リユースはリサイクルに比べ、資源効率が良くより環境に優しい回収方法であり、これを多く実施することができたのは大きな成果でした。



様々な団体・企業の皆様のご協力を得て、社内等におかせていただきました。
現在は携帯電話回収ボックスを、来からご協力いただいている一部の店舗とWE21 ショップに設置しています。

左：スパ南青山店（当時）
右：AVEDA ライフスタイル サロン（当時）

目標 4 ー 事業で得た収益を現地 NGO に寄付、ゴリラと人間の共生を促進する取組みを支援

事業で得た収益を現地 NGO に 20 万円寄付し、ゴリラと人間の共生を促進する取組みを支援します。

結果 ー 達成度 100%

2014 年度の事業を通じて得られた収益は 267,536 円でした。収益の寄付は 2014 年度ではなく、2015 年度になってから実施する予定ですが、金額目標としては達成することができました。
また、2008 年からこれまででポレポレ基金等に寄付をした金額は 1,729,598 円でした。



上：携帯電話回収には、当団体理事とボランティアメンバーが企業等に出向き処理をしました。

下：アースデイ東京での普及啓発活動の様子



■年間活動実績

- 4 月 アースデイ東京 2014 に出展
- 8 月 イベント「アフリカにおける野生動物の密猟の現状とその保全」実施
- 10 月 子どもとためす環境まつりに出展
- 12 月 WE21 活動報告会実施
- 12 月 イベント「日本人が知らないアフリカ紛争地域の今」実施
- 12 月 エコプロダクツ 2014 に出展
- 3 月 神奈川総合高校講師派遣
- 3 月 チーム活動を終了

■チームの活動終了に関しまして■

ケータイゴリラチームは「わたしたちの携帯電話がアフリカに暮らす人びととゴリラを傷つけている」という問題に着目し、ゴリラ保護と国内資源の有効活用を求めて 2008 年に誕生しました。
この「ゴリラを守れ!携帯電話回収キャンペーン」では、数々の企業、法人、団体とのパートナーシップ、市民の皆様からのご支援を受けてこれまでに 16,000 台以上の携帯電話をリサイクル・リユースすることができました。そのリサイクル・リユース収益をゴリラの保護団体である IGCP(国際 ゴリラ保全計画)、並びにポレポレ基金に寄付し、その総額はこれまでで 170 万円を超えます。

この場を借りて、改めてご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。